

明治四十年十二月一日

○合同体育会大会 中央大学及び中央高等予備校合同体育会の発会式を挙げたるは実に去年十一月二十二日なりし歳月流るるか如く早や一年の昔となりぬ鈴木教師の指導宜しきを得たると学生諸氏の熱心とは今亦呉下の阿蒙にあらず其進況大に観るべきものあり即ち去月九日を卜して大会を開催することとし東京帝国大学、早稲田大学、明治大学、慶應義塾、第一高等学校、高等商業学校、高等師範学校、外国語学校、東洋協会学校、独逸協会学校等に移牒して選手の出席を請ひ講道館及明進館の援助に依り同日午前中には校内の紅白勝負を挙行し午後よりは他校選手との試合と定められたり

当日は天気清朗一同歓呼して会場に集合し午前九時を以て剣道及び柔道を両道場に分て同時に開始することとなり剣道は山里忠徳、堀田捨次郎の二師審判の任に当り柔道は鈴木鐵造、居合作造の二師審判の任に当らる

剣道の勝負者は紅軍矢澤謙氏以下十五名白軍播磨運宜氏以下十五名にして加治対藤澤を以て始まり藤澤は敢なく小手を得られ小野之に代りて復た小手を得られ矢澤代りて加治に小手を報ひ井上と闘へ其突撃に仆れ山添矢澤に代りて胴を得小池は山添の

胴を切り成宮代りて亦逆胴を得られ小池は稲川の為に胴を稲川は山下の為に面を山下は笥の為に胴を得られ小磯は小手を得られ笥は齊藤の為に小手を得られ貝瀬は齊藤の胴を得たり貝瀬善く闘ひ中村の面、永島の小手、勝屋の横面を得白軍の佐藤出て力戦奮闘すれとも亦面を得られ紅軍益益奮ふ白軍の猪股漸く貝瀬の面を得猪股は美濃部の為に面を得られ美濃部は小貫の為に胴を得られ今井代りて面を得らる小貫は莊司の為に小手を得られ前山代りて莊司の小手を得前山は橋本の為に小手を得られ橋本は宇野に胴を得られ木下は宇野の小手を得事爰に至て白軍の將播磨は自ら陣頭に立たざるを得ざるに至り奮闘して木下の小手、古賀の胴、本間の小手を得て敵の三勇士を仆し頽勢を挽回して敵將矢澤に肉薄したりしか矢澤の為に胴を得られて遂に紅軍の勝に帰す而して其優勝者は貝瀬、播磨、小貫、加治、笥、小池の六氏と決せられたり

柔道の勝負者は紅軍宮村正治氏外二十一名白軍齊藤良三郎氏外二十二名にして齊藤対河村は背負投見事に極り河村の敗に帰し綱澤代て善く闘へ勝負決せずして引分け小貫対木村は小貫脆くも大腰返しに敗れ矢澤代て亦同一手段に掛り磯代りて奮闘引分けに終り香川対草刈は香川の払腰に敗れ藤澤代りて絞められ紅軍意気揚からず加治出て大腰にて漸く香川を仆したるも加治は堀の肩固めに敗れ堀は又橋本の背負投に敗られ橋本は海老原の背負投に敗れ海老原は新納の巴投けに敗る新納善く闘へ尾形は襟固めに敗れ井上足払に敗れ白軍の山添出て新納を袈裟固にて敗りたるも莊司の袈裟固に敗らる宇野代りて肩固に敗れ栗田

代りて莊司を大外刈にて敗る栗田は笥の大外刈に掛り笥は中村の足払に敗れ中村は市毛の大腰に敗られ三枝代りて市毛と引分け伏見対永島は伏見の大腰に敗られ石田代りて伏見と引分け馬島対辰巳は辰巳の釣込に掛り辰巳は大久保の釣込返しに敗れ大久保は大坪の大腰返しに敗られ大坪は關根に背負投けられ關根は伊藤の足払に掛り伊藤は峰村の大外刈に敗れ峰村は千秋に背負投けられ千秋は室田の押込みに敗れ室田は小野の左釣込みに掛りて敗る小野善く闘へ榎木を大外刈に敵の副將谷口を大腰返しに敗りて大將宮村に肉薄したれとも数度の大戦に小野は勇氣漸く衰へ左釣込みに敗られ菊池は大外刈返しに白軍の副將和田は大腰に敗られ愈々齊藤出て両軍大將の一騎打となり龍攘虎搏の壯觀を現し一同其勝負如何を氣遣へ彌次連は吾を忘れて声援を与へしかとも痛所を生し引分に了りたるは惜みても尚ほ余りあり而して其優勝者は小野、宮村、新納、莊司、香川、木村の六氏と決せられたり

午後に入りて参観者頗る多く満場立錐の地なきに至り三本勝負にて他校選手との試合を開始することとなり剣道の審判は眞具忠篤、得能關四郎の二師にして高野佐三郎、山里忠徳、檜山義質、堀田捨次郎、山田次郎吉、小倉延猛、齊藤明信齋、鈴木鐵造の諸師列席せられ其勝負左の如し

勝 (宮城島飛虎磨(慶) 勝 (松野十九造(外語))  
木下英夫(本) 橋本憲藏(本)

胴、小手 (猪股謙三郎(本) 小手、面 (阿部善吉(外語))  
山田清吉(慶) 小手(莊司勇(本))

洞、洞 小貫頼治 (本)	面、小手 今泉鹿三郎 (本友)
洞、洞 小貫頼治 (本)	貝瀬高重郎 (本)
小手、小手 福田 (東洋)	洞、洞 竹内仲夫 (外語)
面 宇野良之介 (本)	小手 勝屋利秋 (本)
面 眞貝貫一 (高)	面 松野十九造 (外語)
小手、小手 前島為佐夫 (本)	面 美濃部順三郎 (本)
洞、洞 松坂武敏 (独)	河村 (三中)
洞、洞 播磨運宜 (本)	面、小手 沖津 (独)
小手、面 木村善淳 (外語)	分 比留間坦 (独)
面 古賀榮勝 (本)	分 宇野良之介 (本)
海老原竹之助 (高商)	水野秀 (高)
小手、小手 本間仙八 (本)	面、横面 矢澤謙 (本)
海 上 浩 (高商)	椎津盛 (帝大)
小手、洞 播磨運宜 (本)	洞、洞 大日方篤 (早大)
面、面 清水 (明大)	洞、洞 河津義一 (高師)
本間仙八 (本)	矢澤謙 (本)
宮澤 (明)	面 吉浦宴正
洞、小手 一番ヶ瀬倉次 (本友)	分 小手 佐藤末三郎 (明)
洞、洞 吉原哲次 (高師)	宮澤 (明)
根岸重吉 (明大)	勝 金井佐久 (帝大)
面 佐藤末三郎 (明)	内山 (明)
分 洞 一番ヶ瀬倉次 (本友)	面、面 今泉頼三 (早大)

右の内松野対美濃部は互角の勢にて勝負容易に決せず審判者は遂に一本勝負を宣言し美濃部辛ふして面を得たり次に比留間対

宇野は何れも早稲田大学記念会に於ける優勝者なれば其両者の勝負如何は最も注目せらるる所なりしか長時善く闘へ遂に決せずして引分に了り水野対矢澤は水野氏一兩月前まで中央大学に在り両雄会戦するの遑なく相隔つるに至りたれば其優劣如何に付ては同人間の大疑問なりければ双方其鋒を交ゆるや何れも片唾を吞て其勝負に注目したりしか激戦の結果遂に二本共に矢澤氏の勝に帰したり次に清水对本間は兼て明治大学より一刀の酒井氏来らるる筈なりしか差支の爲め当日両刀の清水氏か代られたることとて杜快なる本間氏も聊か狼狽したるか如く数度の突撃も其効を奏せず両度まで面を得られたるは其遺憾思ひ遣られて気の毒なり夫れより勝者一本勝負に移り本学の前山氏は福田、美濃部、播磨、今泉、沖津、木村の六氏を抜き一高の水野氏及び帝大の金井氏は各三人つつを抜きて決勝の上優勝者は前山氏一等に水野氏は二等として其選に当り最後に堀田師对小倉師、檜山師対山田師の模範稽古ありて茲に当日の試合を結了したり柔道は同しく三本勝負他校選手との試合にて山下義昭、三船久藏の二師審判の任に当られ来賓には宮川一貫、山田敏行、徳三寶諸氏其他有段の諸士列席せられ其勝負左の如し

絞メ 種子島季彦 (外語)	分 齋藤申七 (外語)
大久保齊 (本)	分 千秋増太郎 (本)
三輪捷次 (東洋)	石井潜吉 (講)
大外刈返シ 馬 島 禮 (本)	押込、足払 大坪又男 (本)
保田文雄 (東洋)	足払 林 雅 藏 (外語)
峰村國吉 (本)	伊藤孝夫 (本)

押込 箭内雅一郎 (講)  
 榎木利昭 (本) 巴投、巴投 西村洪治 (外語)  
 永島重雄 (本)

釣込、背負投 辰巳孝一郎 (本) 背負投 谷口重就 (本)  
 背負投 石渡重男 (高商) 鈴木重太郎 (講)

跳腰、押込 百島武藏 (講) 分 上原坦介 (講)  
 伏見貞三 (本) 關根鐵造 (本)

押込 由良一 (高商) 小林善清 (明大)  
 菊池香一郎 (本) 跳腰、大外刈 榎木利昭 (本)

分 田中稔 (早大) 稲川三郎 (講)  
 和田渉 (本) 背負投 菊池香一郎 (本)

背負投 藤田喜一郎 (講) 分 山川岩太郎 (独)  
 谷口重就 (本) 室田靖造 (本)

分 宮田進 (独) 分 山口義一 (高)  
 宮村正治 (本) 齋藤良三郎 (本)

分 大腰 鈴木鐵太郎 (慶) 大腰 澤山福彌太 (慶)  
 大外刈 渡辺兵馬 (高師) 和田渉 (本)

返シ 西川友徳 (高商) 分 小野康 (本)  
 松尾將二郎 (本) 國末幸造 (講)

分 藤島 (早大) 分 安達志門 (講)  
 齋藤良三郎 (本) 菅波恒典 (高師)

此無段者の勝負頗る活発にして壮快を極め次て二段半田氏初段  
 諏訪部氏は講道館投の形を演せられ次に初段大野対初段野村氏  
 の勝負は野村氏の敗に帰し三段宮川一貫氏への五人掛りは先つ  
 初段稲川二郎氏は押込まれ初段中野正三氏は釣込まれ初段田中

鶴吉氏は足払初段岡田勝利氏は背負投に何れも宮川氏の敗る所  
 となりしか最後に二段徳三寶氏出て勝負決せずして引分に了れ  
 り  
 夫れより一同に茶菓及び晚餐の饗応あり兼て設けられるた余興  
 場へと集合したり場内には六尺有余の余興なる大文字雄壮に署  
 せられ先つ桃川燕林は赤穂義士伝中高田の馬場堀部安兵衛復讐  
 の一駒を木崎正道一家は剣舞数番那須祐直は薩摩琵琶常陸丸及  
 ひ本能寺を何れも喝采声裏に演了して茲に当日の余興を終へ一  
 同母校と体育会の万歳を唱へて散会したるは午後八時を過く